



養護教諭のワーク・ライフ・バランスにおける 困難と対処をめぐるとりくみ語りの分析

小野真実¹ 朝倉隆司²

1) 東京学芸大学大学院 教育学研究科 養護教育専攻 2) 東京学芸大学 教育学部 養護教育講座

緒言

ワーク・ライフ・バランス(以下WLB)とは仕事と生活の調和を意味し、WLBの実現は学校と教員の目指すべき次世代の姿とされている。(文部科学省2016)

現代、学校現場を取り巻く環境が複雑化・多様化し、教員の長時間労働の改善が課題となっている。中でも、女性教員の働きにくさや仕事と家庭生活の両立の難しさは深刻な課題である。中学校教員を対象としたWLBの研究では、女性教員の70%が「仕事・家庭・プライベートを全て両立させたいが、仕事を優先している」と回答している。(直井,佐藤2013)

養護教諭は、教員と同様に、多様化・複雑化する児童生徒が抱える健康課題に対応するため、多くの職務を求められるようになっていく。これらから、養護教諭はWLBを保つうえで何かしらの困難を抱えていると考えられる。WLBの実態やその背景の研究は、中学校教員(直井,佐藤2013)や看護師(本島ら2017)を対象に実施されているが、養護教諭を対象とした研究は行われていない。そこで本研究では、養護教諭のWLBにおける困難や対処をめぐるとりくみ語りを分析し、養護教諭のWLBの課題や対処を明らかにすることを目的とした。

方法・倫理的配慮

東京都の学校に勤務する養護教諭7名を対象とし、2017年10月から12月にかけて半構造化面接を行い、「WLBにおける困難」「困難を感じた時の対処法」などを尋ねた。データは修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)で分析した。なお、カテゴリは【】、サブカテゴリは《》、概念は◇で示した。

対象者には、研究の趣旨及び方法を口頭で説明し、インタビューを行うことに同意を得た。また、得られたデータは研究目的以外では使用しないことや、データは匿名性を保持して管理することを約束した。

結果と考察

[WLBにおける課題]

WLBにおける困難をめぐるとりくみ語りに、16の概念、7つのサブカテゴリ、3つのカテゴリ【仕事と生活の両立の課題】【自身の健康維持の課題】【労働環境の悪さ】を生成した(表1)。

【仕事と生活の両立の課題】では、ライフステージ(新婚期、子育て期、親の介護期)によってWLBで困難となる課題に違いがみられた。これは、家庭役割の第一義的な責任を担っていることの多い女性の特徴と言える。

表1 養護教諭のWLBをめぐるとりくみ

カテゴリ	サブカテゴリ	概念	バリエーション
仕事と生活の両立の課題	家庭生活と仕事の両立の課題	家事の負担	(結婚してから)家事っていうものがかなり押し出してきたよね、時間に、だから帰ってからの時間って、一人のときはもう自由時間だったけど、帰ってからの時間がまた第2の仕事みたいになって、超忙しってなってる。
		夫との共同生活からくる不満の蓄積	夫は何にもしてくれないから、家事とかまわすしてくれなかったからね、で、今だにしてくれないから、だから私が弱音を吐くと、夫は「じゃ諦めれば？」っていうそういう人だから。
	子育てと仕事の両立の課題	子どもの世話と仕事における葛藤	保育園のお迎えがなければ、もうちょっと残業して仕事もできるのにな、いつもこの時間に帰られて、何時に出なきゃいけないから、生徒が保健室に来てても、「もう早く片付けてもう違うことしたいなー」とかそういう焦りとかあったから、(略)でも家に帰ると、矛盾しちゃってるかもしれないけど逆転して、仕事があればこの子たちとゆっくりできるのにな、もともと手をかけて育ててあげられるのにな、なんか朝から晩まで保育園に預けてかわいそうにとか思ったり、それを行ったり来たりしてたね。
		子どもと関わる機会の限界	子どもより先に、行事によっては学校に行かなくちゃいけないし、下したら行事が重なって、この間運動会もそうだし見に行けない。学校公開とかも(勤務先の学校の行事と)重なっちゃうと、行けないよ。
	子どもとの気持ちのずれの違い	(仕事と生活)両方ともちゃんとしてあげようって思えば思うほど、空回りしちゃうことで困難さを感じましたね。例えば、「娘の受験に一生懸命付き合っただけなのに！」と思って負気負えば負気負うほど、娘とちょっと心が離れて。	
養護教諭と母親の切り替えにくさ	養護教諭的に聞くと、娘はすごい嫌がるんですけどね、教育的な感じが、(略)「私、お母さんの生徒じゃない」とか話されて「あ、そうか、そういう言い方してるんだな」と思った。(略)「どうしたの?」っていう言い方一つでもちょっと、指導的な感じが、娘と学校の先生に「どうしたの!」って言われてるように聞こえたのかも思えない。		
親の介護と仕事の両立の課題	親の介護の負担	今母が施設に入ってるんですけど、でも1ヶ月に1週間くらいは(母の)家に帰らなきゃいけないから、(略)その間、結局仕事を最優先は一日は休まなきゃいけないのかなって言うの、(略)「仕事休またくないな」と思う反面、今度母の方についていると「私が仕事を休んで母は必ずずっと家にいられるの、かわいそうだな、申し訳ないな」って思っちゃうよ。	
社会生活と仕事の両立の課題	社会との関わり方の薄れ	人から、例えば友人とか、恋人でも友人でも親戚でも、「会おうよ」とか「ご飯行こうよ」とか誘われても答えないってことになっちゃうんです。(略)人と会うのが億劫になって、普段だかさん子どもと濃密に接しているって、休みをとるとも一緒で遊ぶのが好きな方なので、「休みの日くらい誰とも喋らないで休みたいな」というような気持ちになっていたり。(略)あと仕事以外のね、社会生活への参加みたいなものがずいぶん薄いなって言う気持ちとかもやっぱりそうなんじゃないですかね。例えば、近所付き合いとか、親戚付き合いとか。	
自身の健康維持の課題	身体的な不調	金曜の夜に(子どもに)「明日お出かけ行こっか」とか言うじゃないですか。で、土曜日の朝になって体がすごい疲れてんの。で、「あ、ごめん、行けないやっぱ」とか言うよー!じゃあ言わなきゃいけない!と!とか言われることは多々あります。気持ちはあるんだけどね。	
	体調不良の持ち越し	精神的な不調	養護教諭として必要とされているっていうか、なんかすごく邪魔だから、甘やかすから、保健室は、だからそういうのは本当にやめ欲しいっていうのが学校としての意見って感じであつたから、そういうところで働くっていうことに対してすごく心病んでしまって、仕事が終わっても全然自分の生活を楽しむことができなかったな。
	身体的かつ精神的な不調	身体のかつ精神的な不調	更年期障害の落ち着かないというかそういう症状が出る時とか、それプラス仕事で忙しいとなると、なんか悪循環、どっちにとっても良くないような感じはありましたね。その時は、例えば症状的には、ホットフラッシュっていう、汗が出てきたりとか、自律神経失調症みたいな感じですかね。あとイライラしたりとか、頭痛、肩こりとか。
気持の持ち越し	仕事と生活の切り替えにくさ	休みの日も学校に来て仕事をするのもそうだけど、家に帰っても仕事のことばかり考えてるみたいな、「失敗したらどうしよう」とか、そういうので、結構仕事のことばかり考えてた時はありましたね。	
労働環境の悪さ	養護教諭の仕事による勤務時間外労働や休日出勤	養護教諭の仕事による勤務時間外労働や休日出勤	だから養護教諭が休むってなると、保健室は閉めるっていうか、担任の先生が対応できる範囲でやってくれないってなっちゃうので、そういう意味では、(学校の)子どもが居る時間の休憩っていうのは取りにくいと思います。
	地域行事による勤務時間外労働	地域行事による勤務時間外労働	あと土曜出勤が多いかな。地域行事がすごく多くて。地域マラソンとか、漢字検定も学校でやるから来てほしいとか。(略)それが、本来休みの日に来てるのが不満。(略)春休みも振り替え休日として使ってくださいみたいな日があるんだけど、それが出ない日もあるからね。
	部活動指導による勤務時間外労働や休日出勤	部活動指導による勤務時間外労働や休日出勤	ダンス部は結構イベントがあるよ(休日が)潰れたし、ソフトテニスの方はーん、結構潰れましたね。日曜日が試合だと土曜日に練習したいって言うから、結局平日に代休を取らんと取れなかったりも、自分が休んだらまた誰かにしわ寄せが行っちゃうっていうか、誰かにな、その分見てもらわなきゃいけないから、それも申し訳ないなと思って、「じゃ(学校)に行こっか」って。
	学校組織の仕事による勤務時間外労働や休日出勤	学校組織の仕事による勤務時間外労働や休日出勤	あと強制的な残業みたいなのか、勤務時間を超えてからの会議とか、「もう帰っていい時間だよな?」っていう時に会議やってるから帰れないし、そういうのはちょっとね、こっちも予定があつたからね、その予定がもうめちゃくちゃになるから。

[課題への対処]

課題への対処をめぐるとりくみ語りに、13の概念と5つのカテゴリ【人の支えを得る】【自己コントロールを高める】【割り切りやすい職場の条件】【娯楽の存在】【介護・医療・福祉サービスの活用】を生成した(表2)。なお、対処の分析では、全ての困難における対処の語りや一度に分類しており、WLBの課題別に分類しているのではない。また、表2のバリエーションには、それぞれの困難における対処の語りの中から一例を抽出し示した。各バリエーションの冒頭には、対処の語りに対応していると考えられるWLBの課題のサブカテゴリ《》を記載した。

表2 養護教諭のWLBをめぐるとりくみへの対処

カテゴリ	概念	バリエーション
人の支えを得る	親の理解や協力	《家庭生活と仕事の両立の課題》 家は規則があつて、夜19時までに私が帰らないと、晩ご飯はおばあちゃんが作るよっていうか、あとは冷凍してストックしてあるもの食べるよってなってる。なぜかという、19時までに帰らなかったっていうことは、何か事故だとか事件があつて、病院に行ったりとかしてるよっていうことを常々言ってるんですよ。
	夫の理解や協力	《親の介護と仕事の両立の課題》 介護は、まあ夫も頑張ってるかな。自分の母親だしね、夫はね。(略)私も休みをとったりするけど、夫も結構「え、そんなに休んでいいの?」っていうような休み取ったりして、なんとかが対応してるんですよ。
	教職員への理解	《休みのとりくみ》 土日出勤するとかも、管理職も工夫してきてくれて、4つ行事があつたらその中の1個でいいですみたいな感じで人数をばらばらさせてくれて。
	児童・生徒との関わりから生じるやりがいや活力	《子育てと仕事の両立の課題》 (児童が)「さようなら」とか「先生ありがどう」って言うてくれたりしたらその一言が支えになって、そのポツとした気持ちを家まで持って帰れるっていうかな。「今日こういうこと言われたよ」って、「あなた達もそういう風に言える人になるよいいね」って子どもには話したりしてますね。だから、両方影響してるね、家族のこともそうだし、仕事でのごんごん支えとなって家族にも影響して「こういう風に言える人になるよいいね」って言うたり。
自己コントロールを高める	友人や知人との交流	《体調不良の持ち越し》 学生の時の友達はほんとに、まあ地域の養護の先生もすごいいい方ばかりなんですけど、やっぱりなんか「こんなこと聞いていいのかな?」みたいなこと、「こんなこと聞いて恥ずかしい?」みたいなことも、やっぱり同期だとか聞いたりするので、そういうのはありますね。友人には支えられてるかな。
	子どもとの関わり方の工夫	《子育てと仕事の両立の課題》 週末はどっか行ったりしてますね。穴埋めですよ、穴埋め。もう、羊飼い行ったりとかさ、椎茸刈りとか、そういう自然の体験型だからさ、魚釣り行ったりさ、連れていったりするよ、なんかやっぱり穴埋めでなんか一緒に体験した方がいっかと思ったり。
割り切りやすい職場の条件	前向きな考え方・気持ちを持つ	《休みのとりくみ》 仕事も「こまめでやりたい!」みたいのはもちろんあるんですけど、でも、こまめでやるには自分の生活をこまめで削らなくちゃいけないっていうのがあつた時に、私は決して無理をしないというか。
	労働条件の存在	《気持の持ち越し》 (生徒の)すごく重たいケースを持ってるときに、学校を出てから家までが短いわってセッティングが効かないんですよ。で、学校のその重たい気持ちを持ち帰ってしまふんですよ。でも今電車に乗ってなんか酔っ払いのおじさんとかを見てると、なんか忘れちゃう。その時間として、あとね、本を読もうと思つて。(略)通勤距離を逆に長くすることで、そういう時間をちょっと確保したりとか。
娯楽の存在	娯楽の存在	《体調不良の持ち越し》 まず寝たいみたいな感じですよ。動かすにいたいみたいな感じですよ。でも結構寝るとね、治るんですけどね。そういうストレスは。
介護・医療・福祉サービスの活用	介護・医療・福祉サービスの活用	《休みのとりくみ》 (教員の)放課後の相談により、帰宅時間が遅くなるという困難の対処法の一つは、大人には異動があるって言うことですね。そのチャンスみたいなところで、自分が異動することもあるだろうし、その人が異動することもあるだろうし。
介護・医療・福祉サービスの活用	介護・医療・福祉サービスの活用	《気持の持ち越し》 やっぱり給料とボーナスを貰えていることが、自分にとってはなんか、一番フラットなやりがい。どんな時でもそれがあるからってさ。(略)仕事してる時はもちろん給料のことなんか忘れてるけど、給料日に給料が入った時に、「あー、そうかこのために今月私はあんだけつらいことをしたんだ」とかさ、なんかそうやって心の清算してくれる感じがする。
介護・医療・福祉サービスの活用	介護・医療・福祉サービスの活用	《気持の持ち越し》 養護教諭以外の楽しみをちゃんと見つけて、私はちょっと今あることをやってるんだけど、それは結構だよね。(略)それですごい発散されてる部分もある。
介護・医療・福祉サービスの活用	介護・医療・福祉サービスの活用	《親の介護と仕事の両立の課題》 その後は介護保険の制度ができたからね、ヘルパーさんとかそういう人がやってくれるようになったからすごい楽になったんだけどね。

[WLBをめぐるとりくみにおける養護教諭の特徴]

WLBをめぐるとりくみや対処において生成された概念やカテゴリの多くには、教員や働く女性の特徴がみられた。その中で養護教諭の特徴がみられた概念として、WLBをめぐるとりくみにおける以下の2つがあげられる。

<養護教諭と母親の切り替えにくさ>(表1)

職場で養護教諭として働く自分と、家庭で母親として子どもと接する自分の切り替えが十分にできていないことで、子どもが不満を抱えている状態と定義する。語りにおける「教育的な言い方」や「指導的」、「娘はすごい嫌がる」という言葉から、養護教諭として児童・生徒に関わる時と同様の話し方をするということに対して子どもが嫌悪感を抱いていると言える。また、「自分で分かっているんだよね」という語りから、対象者自身の「教育的な言い方」は無意識に現れていることが分かる。

<養護教諭の仕事による勤務時間外労働や休日出勤>(表1)

養護教諭の業務(放課後の来室者対応や健康診断の準備や事後処理等)が原因で定時を過ぎても帰れなかったり、仕事を家に持ち帰ったり、休日出勤したりすることで休みがとりにくい状態と定義する。業務を分業したり代わられる存在がいなくなったことからも仕事を一人で抱え、勤務時間外労働や休日出勤につながっている部分に、一人職である養護教諭の特徴が表れている。

結論

養護教諭が感じるWLBの困難として、仕事と生活の両立の課題、自身の健康維持の課題、労働環境の悪さがあげられた。養護教諭がWLBを保つには、家族や教職員などの人々、自己コントロール、職場の条件などの様々な側面から支えを得ることで、仕事と生活のバランスだけでなく自身の健康状態も保つことが重要であると示された。